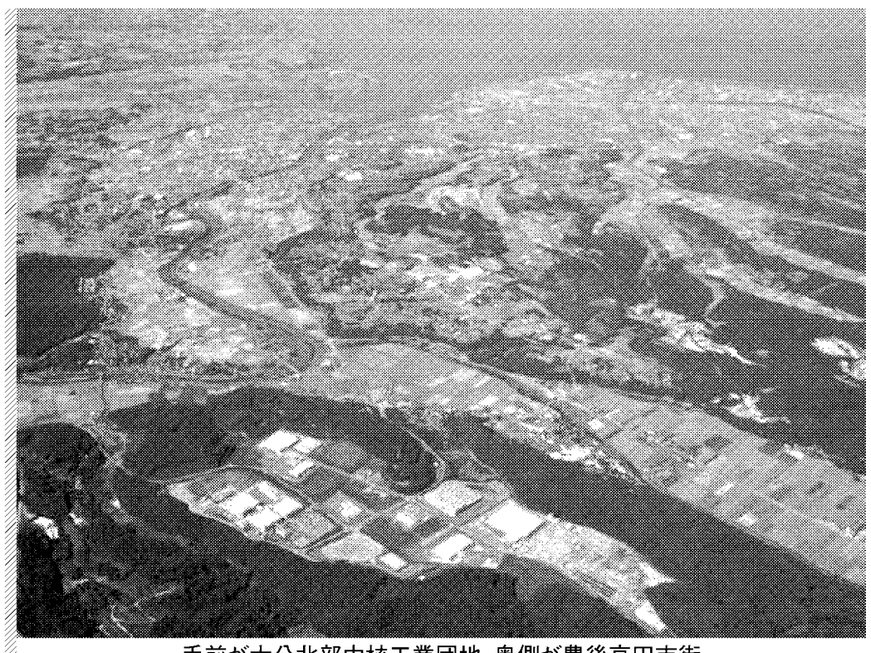
誘致企業のサポートに注力する
大分北部中核工業団地

自動車や精密機器関連企業などが活発な生産活動を行う大分県北部地域。2004年にダイハツ九州（中津市）が進出して以来、同地域は自動車部品メーカーが相次いで進出した。これに呼応して大分県なども立地企業向けに幅広い支援体制を整えてきた。その企業誘致の受け皿の一つとして重要な役割を担ってきたのが豊後高田市にある「大分北部中核工業団地」だ。そこで同団地に立地するメリットとともに、永松博文豊後高田市長に企業誘致の方針や魅力的な街づくりについて聞いた。

取引先に近い好環境が人気


手前が大分北部中核工業団地、奥側が豊後高田市街

大分北部中核工業団地が造成されたのは94年。地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）と大分県土地開発公社が共同で造成、地元豊後高田市を加えた3者で誘致活動を進めてきた。

同団地の分譲面積は約50ヘクタール。自動車関連では東海ゴム工業の生産子会社、TRI九州や後輪駆動装置組み立ての浅野歯車九州、プレス加工のヒロテック大分工場、北田金属工業所大分工場、カチオン電着塗装の土屋製作大分工場などが立地。

キヤノングループ関連はプリンター用精密ゴム部品を生産するTRI大分AEが立地するなど、「世界一の部品供給基地」を目指す14社が操業する。

残る分譲面積は商談中区画を除けば7・5ヘクタールと、完売に力が入る。

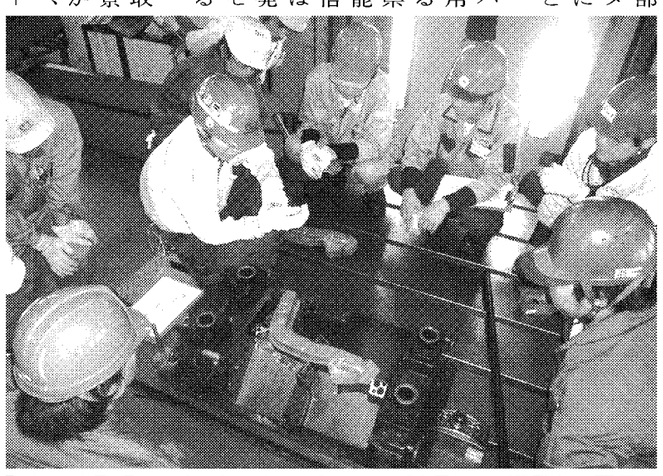
好調な立地背景にはダイハツ九州や大分キヤノン（国東市）、大分キヤノンマテリアル杵築事業所（杵築市）といった大手メーカーの拠点が30―40分圏内に多数立地しているのが人気の理由だ。

現在北九州市から宮崎県を結ぶ東九州自動車道（計画延長436キロメートル）の開通区間も着実に伸びている。14年度は宇佐市―福岡県築上町間の開通が見込まれ、今まで以上に交通の利便性もさらに良くなる。

こうした恵まれた好環境の中、12年度の大分県の企業立地件数は22件（2月末現在）。内訳は輸送用機械8件、精密機械3件、医療1件、その他10件。輸送用機械8件はいずれも県北部地域での新設、増設で北部九州にある完成車メーカーの生産拡大に対応したものがほとんどだ。

13年5月はダイハツ九州が軽自動車用エンジンを生産する久留米工場（福岡県久留米市）の生産能力を従来の1・5倍に増強。14年3月はエンジンの技術開発拠点「久留米開発センター」を開設するという。

国内の製造業を取り巻く経済環境も景気回復への期待感が高まっているだけに、大分県商工労働部企業立地推進課は「自動車関連で関東、関西圏などから九州へ進出していない企業はまだある。県北部地域の既存立地企業の増設も視野に誘致に力を入れる」と強調する。


「プレス金型保全技術者育成基礎講座～実践編～」の活発な実習風景

取引拡大を後押し

一方、立地企業に対する支援は進出時の優遇策だけに留まらず、今後進出を検討する際の決め手の一つといえる。

大分県産業創造機構は自動車関連産業新規参入支援プロジェクトチームを中心に県内企業の参入・取引拡大支援を精力的に行っている。1月にはダイハツ九州から田中順一プロジェクトマネージャーを迎え、同チームも3人となり支援体制を強化。

ダイハツ九州は地場調達を加速させるため部品展示会などを開いており、県内での取引拡大チャンスは広がっている。知念良信プロジェクトマネージャーは「厳しいQCD（品質、コスト、納期）対応や見積もり段階で採用されないケースもあるだろうが、くじけず取引拡大の努力を継続してもらいたい」と訪問企業を鼓舞する。

「一次サプライヤーとのパイプ役になる」（知念プロジェクトマネージャー）ともいい、「1社単独で難しいなら、複数社で強みを発揮し取引拡大につなげてもらいたい」（同）と訴える。

また大分県立工科短期大学校（中津市）で行われる「プレス金型保全技術者育成基礎講座」は全国から注目を集める事業。この講座は同県が産学官で自動車関連産業のさらなる集積に向け、モノづくりの要となる金型技術者の実践・応用力を育成している。

12年度は10年度に開始したプレス金型保全技術に絞った基礎講座を実践編に拡充した。メーン会場は北田金属工業所大分工場を含む県内プレスメーカー3工場。6社7人が参加し、金型設計、保全の両側面から生産現場で実際に起こっている不具合金型の改修や品質管理を行う実践講習を行った。

指導した台博治同短大教授は「受講者間の交流も広がり、受講者が所属する各企業でもコストダウンにつながっている」と話し、13年度の同講座に意欲を燃やしている。

さらに進出を検討する企業にとって豊後高田市が立地企業に行う支援や暮らしやすい生活環境、子育て、教育の街づくりは見逃せないポイントだ。

定住者歓迎の街づくり

同市の人口は約2万4000人。定住人口3万人を目指し、定住、移住者を歓迎する魅力ある街づくりを進める。

特に同団地は雇用創出の重要拠点。同団地で働く社員の約4割が同市で居住するだけに、働きやすい環境整備には余念がない。格安の市営住宅を提供するほか、ビジネス客にはタクシー代を補助、同市飲食店街ガイドも配布する。婚活促進事業の一環では、同団地と市内企業社員との婚活イベントなども行った。

そのほか子育て世代を応援する助成制度や学力調査で県内1位の高い学力水準を誘る教育を行うなど、ユニークな施策で全国から熱い視線が注がれている。

出会い応援イベント開催で24年度は22組のカップル成立

豊後高田市長 永松博文氏に聞く

―企業誘致の方針を教えて下さい。

「誘致交渉も大切だが、誘致後の企業支援が一番大切。支援内容が立地企業に評価されれば、企業は事業規模を拡大してくれる。さらに関連企業の誘致も働きかけてくれる。これが誘致を成功に導くカギだ。そのためには常に、企業とのコミュニケーションが欠かせない。大分北部中核工業団地に立地する企業とは良好な関係を築くことができた。企業間の結束力も強く、地元採用をとくに重視してもらっている。当市はU・J・Iターンに力を入れており、離職率も低いと高評価を得ている」

―定住人口3万人を目指した街づくりが進んでいます。

「昭和30年代をテーマに『昭和の町』を再現した中心市街地には年間約40万人、市全体で約100万人の観光客が訪れている。だが少子化により当市の人口は減少傾向にある。市民サービスの充実と商工業を活性化させるには3万人規模の人口が必要だ。12年度は27事業、約4億9000万円を当初予算に盛り込んで定住対策関連事業を推進している。移住者向け情報誌によると、子育てや移住者支援制度が評価され、住みたい田舎ベストランキングで全国1位に選ばれたことはありがたい」

―具体的には。

「若い子育て世代が市内保育施設で休日保育を利用でき、住宅応援制度を設けて安心して子育てできる環境整備や婚活事業などに取り組んでいる。大分北部中核工業団地関連ではこれまでに格安住宅を提供してきた。実現できる要望については県とも連携して対応している」

子育て世代の支援加速

―新たな街づくりはこれまで以上に雇用を生み出す誘致のセールスポイントにもなりますね。

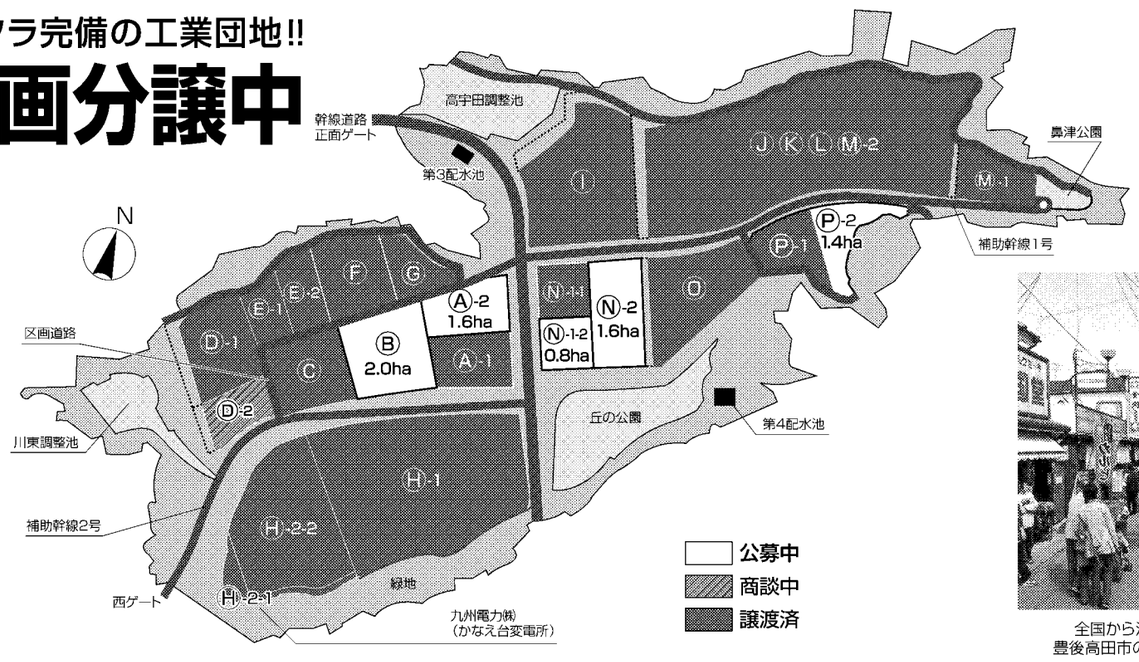
「2012年は2社が立地した。これまでに19社が立地しており、そのうち6社が事業規模を拡大した。当市にとっても新たな企業立地は人口減少に歯止めをかける社会増につながる。当市は災害も少なく、自然環境も豊かで食材の宝庫だ。今後東九州自動車道の開通区間が伸びると交通の利便性もさらに良くなる。ぜひ当市の街づくりに期待してもらいたい」

大分北部（おおいたほくぶ）

大分県 県北最大の生産拠点
中核工業団地
■所在地／大分県豊後高田市かなえ台

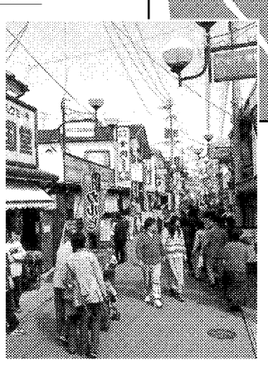
大分北部中核工業団地の周辺地図

高台にある高品質なインフラ完備の工業団地!!
大好評5区画分譲中



特長
- ●最長15年まで長期割賦支払い可能
- ●税制や補助金等の優遇制度が充実
- ●緑化義務免除（工場立地法に基づく特例団地）

概要
- ●用　水:上 水 道　270㎥／日
  工業用水 3,000㎥／日（予定）
- ●排　水:公共下水道完備
- ●電　力:特別高圧　66,000V


全国から注目される豊後高田市の「昭和の町」

- ●中小企業基盤整備機構
  九州本部 産業用地課 ☎(092) 263-0341
  大分企業立地オフィス ☎(097) 533-8171
- ●大分県 企業立地推進課 ☎(097) 506-3246
- ●豊後高田市 商工観光課 ☎(0978) 22-3100

大分北部中核工業団地関連ウェブサイト
- 大分北部中核工業団地ホームページ　大分北部中核工業団地からのお知らせ。http://www.oitakita.jp
- 大分県ホームページ　http://www.pref.oita.jp/
- 豊後高田市ホームページ　http://www.city.bungotakada.oita.jp/
- 中小機構のご案内サイト　各種支援施策・全国の支部の最新情報を掲載。「中小機構ウェブサイト」http://www.smrj.go.jp